研究概要報告書

資料－1

（／）

研究題名	日本語学習者による日本語音声のリズムに関する研究	報告書作成者	大竹孝司
研究従事者	大竹孝司		
研究目的	本研究は日本語を第二言語として学習する者の日本語音声の時間的特性をモーラタイミングの観点より調査を行なうと共に日本語音声のリズムの本質を実験音声学の立場より解明を試みるものである。		
研究内容	これまでの研究では日本語音声の時間の特性はモーラタイミングのリズムを持つとされ、多くのデータが提示されてきた。だがこれまでの研究の多くは日本語を中心にデータを収集することが多く、日本語音声の時間的特性が日本語固有の特性であるかについて他言語を考慮にいれた上で考えることがなかった。そこで本研究では日本語の時間的特性を生成の立場から上で述べた点を考慮に入れ明らかにすることにした。本研究ではHan (1962)が論じた長音の時間的特性、Port et al. (1980)及びHomma (1981)が論じた補償効果、Port et al. (1987)が主張したモーラ数と単語の時間の関係の3点の特性が日本語固有の時間的特性であるかどうかについて、日本語とは異なるリズムを持つとされる韓国語、スペイン語、英語などの話者を被験者として実験を行なった。又の結果この3点の時間的特性は日本語と同じ音韻環境における実験では同様の現象が見られることが明らかになった（韓国語については現在分析中）。これらの実験結果によれば、生成の立場からは従来主張されてきた日本語の時間的特性とされたものが必ずしも日本語固有のものではなく、又、モーラタイミングを支持するデータであるとは限らないことを示唆しており、大竹がこれまで英語を母語とする話者が		

様式－9

説 明 書

日本語を学習した場合，一部の時間的特性を除けば母語のリズムとは無関係に日本人の日本語と類似した特性を示すという実験結果を支持するものである。

以上の研究結果は次の学会で発表を行なった。

1. "Counter Evidence for Mora Timing," Proceedings of the Sixteenth Linguistic Association of Canada and the United States (Imprint)
2. 「日本語のリズムとモーラの時間的直線性」第98回日本言語学会大会 (1989)
3. 「拗音の時間的特性とモーラタイミング」，日本音響学会平成元年度秋季研究発表会 (1989)
4. 「言語のリズムと音節構造」電子情報通信学会技術研究報告 Vol. 89, 55-61 (1990)

(注： フローチャート図，ブロック図，構成図，写真，データ表，グラフ等 研究内容の補足説明に御使用下さい)

様式－１０